

今年度の研究計画

2年計画の1年目になります

これまでの研究主題

- 2000～2001 年度 「選択授業で使える実験ネタ」の開発
2002～2003 年度 「選択学習と必修理科との連携・系統化」
「新指導要領と教科書の検討」
2004～2011 年度 「わかる楽しい授業づくり」
2012～2019 年度 「観察・実験方法と教材・教具の見直し」
2020～2022 年度 「深い学びを促す指導」

2023 年度の研究計画

研究の主題 「生徒が自ら学ぶ授業づくり」

～ 効果的な教材・教具と授業展開 ～

今年度の研究仮説

観察・実験方法や教材・教具を工夫するとともに、ICT 機器を効果的に利用することにより、科学的な知識や概念を土台にして科学的に調べる能力や自然を探究しようとする能力、自らの考えを表現する能力を育成することができる。

研究方法

① 観察・実験方法の見直し

- 生徒の意欲を引き出し、理解を促すような観察・実験方法の開発や改善を行う。
(教科書の方法を取り組ませる上でのポイントや代替りの方法の提案など)

② 教材・教具の見直し

- 生徒の意欲を引き出し、理解を促すような教材・教具（装置・器具）の開発や改善を行う。
(教科書の教材・教具を組み合わせる上でのポイントやICTを含む代替りの方法の提案など)

③ ICT機器と具体物をいかに組み合わせて授業展開すべきか

- 生徒が自ら探求し課題解決していくよう、ICTと具体物をどのように組み合わせて授業を展開すべきかを研究する。(内容やねらいに応じて、ICTを「使わない」という判断も含めて検討する)

④ 生徒が学んだことを生かし学びを深めるよう、いかに授業展開すべきか

- 説明・論述等の活動を取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業をどう展開すべきかを研究する。

※ ①・②は、レポート交流や分科会の発表を中心に研究を進めます。

生徒が自ら学ぶために効果的かどうかを焦点化し、指導方法やICT機器を含む教材・教具の改善案を研究し、管内で共有していく。

※ ③・④については、公開授業の中で交流をはかり研究を進めます。

市町村単位の公開授業の中でも「生徒が自ら学び、表現する授業」を研究し管内で共有していく。さらに組織的に授業づくりを行い（プレ研や授業研など）、効果的な研究を行う。

今年度の研究内容

- ① 観察・実験方法の見直し
- ② 教材・教具の見直し

※ 「生徒が自ら学ぶ授業」をつくるために、生徒が「やってみよう」「これなら自分でもできそう」と思える観察・実験の方法や教材・教具の工夫を部会員の皆さんと共有できればと思います。また、生徒が単元や本時の目標にたどりつきやすいと考えられるような観察・実験の方法や教材・教具の工夫も共有していければと考えています。

- ③ ICT 機器と具体物をいかに組み合わせて授業展開すべきか
- ④ 生徒が学んだことを生かし学びを深めるよう、いかに授業展開すべきか

※ 「生徒が自ら探究し課題解決するため」「生徒が自らの考えを表現する力を伸ばしていくため」、どのような授業展開をしていくのかを皆さんと交流していければと思います。私たち理科教師は、実物を通して学ばせていくという側面があります。ICTを使う・使わない、使うならどのように使わせることが生徒の学びを促すことになるのかという観点から、研究授業をととして授業展開について提案していただければと考えています。

今後の予定

- | | | |
|-----|------------------------|---|
| 4月 | 各市町村研究協議会 | 今年度の研究について周知・確認 |
| 5月 | 推進委員研究協議会 | 各市町村研究協議会の結果報告、今後の予定について
レポートタイトルの集約
理科教育調査 |
| 8月 | 各市町村研究協議会 | レポート集約 |
| 10月 | 専門部会2次研究協議会（中心サークル：千歳） | |

実技研修会については今のところ未定です。
決まり次第お知らせしていきます。



コロナの分類引き下げに伴い、様々な活動がコロナ前に戻っていくものと考えられます。今年度からは、これまでの積み重ねを生かしつつ、デジタルとアナログの効果的な活用を軸に据えていきます。そして今求められている「生徒が自ら学ぶ」という授業づくりと合わせた研究にすることで、先生方の悩みの解決につなげたいと考えています。

研究授業においては上記③や④の成果と、生徒が自ら学ぶ姿が見られることを期待します。また、生徒が自ら学ぶという観点から①や②の見直しがかかり、より効果的なものにしていけるよう、部会員の皆さんからも積極的に提案があると嬉しいです。

今年度からの新しい研究について、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。Google Workspaceも使いながら、日常の実践を充実させていきましょう。